

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立福山誠之館高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校, 各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒720-0082
広島県福山市木之庄町六丁目 11 番 1 号
E-mail fukuyamaseishikan-h@hiroshima-c.ed.jp
Website <http://www.fukuyamaseishikan-h.hiroshima-c.ed.jp/>
幼児児童生徒数 男子 378 名 女子 453 名 合計 831 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

当校は、「広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒」の育成を学校理念として、ESD を人格の涵養と関係性の尊重と捉え、ESD の実践を通して国際理解や社会形成へ参加する力の育成を目標とした。

具体的には、国際交流と体験的・探究的学習を柱に、①国際交流に係わる活動、②国際理解に係わる教育、③自己実現に係わる学習、④伝統文化 (武道・建学の精神) に係わる学習を行った。

① 国際交流に係わる活動

今年度 12 月には、生徒 15 名がカナダの姉妹校 Yele Secondary School に約 2 週間滞在し、学校の授業のみならず、現地の教師や高校生とともに市内各所を訪れて、実践的な英語学習に励み、文化や社会を実体験した。

また、ノルウェーの姉妹校 Amalie Skram School から 6 月に 8 名の生徒が来校し、文化祭やホームステイ、平和祈念公園訪問等を通じて、生徒同士が交流を深め、相互理解や尊重の精神を育んだ。3 月には、本校生徒 10 名が相手校を約 2 週間訪問し、授業の受講や様々な体験活動 (文化・スポーツ・自然) に取り組み、国際的視野を広げ、国際感覚を磨いた。さらに双方の生徒が 1 名ずつ

1年間の交換留学を行っており、国際交流推進に貢献している。

今年度は、2月に初めてノルウェーの別の高校からの訪問生徒40名を迎えて交流を行い、本校からも生徒が同校を訪問し、新たな交流関係を築いた。

② 国際理解に係わる教育

ノルウェー人留学生が母国の学校や生活・文化について英語で発表し、全校生徒が聴講した。長期留学中の生徒から毎月送られる英語の生活レポートも、校内掲示板や学校ホームページを通じて、ノルウェーに関する知識・理解を深めている。さらに、帰国した生徒が学習成果を報告した際には、留学先で培ったプレゼンテーション能力の高さを全校生徒に印象づけた。海外研修参加生徒も国際的問題に関する調べ学習と報告会に取り組み、協働して課題を発見し解決する力や発信する力を培うとともに、全校生徒に体験を還元した。

③ 自己実現に係わる学習

自己と社会について理解を深め、自己の在り方生き方を考え、望ましい進路選択を通じて、より良い社会形成に参画できる生徒の育成を目指して、大学・NPO・自治体・企業等と連携しながら、問題の解決や探究活動に主体的・創造的・協同的に取り組み、相互に学びあう学習活動を展開した。

④ 伝統文化（武道・建学の精神）に係わる学習

12月中旬の1週間、柔道・剣道の早朝寒稽古に取り組むことにより、克己の精神を養い、自己管理能力及び基礎体力の向上を図った。また新入生は校名の由来でもある、建学の精神を表した中国の古典『中庸』の一節を入学直後に必ず暗誦するとともに、創立を祝う開校記念行事では、藩校から地域教育の要を担い、有為の人材を多数輩出した本校の建学の精神に立ち返っている。



文化祭で茶道体験をするノルウェーの生徒たち



ノルウェー長期留学の学習成果を報告する生徒



自治体と連携して地域社会活性化のアイデアを発表するポスターセッション



『中庸』の暗誦を披露する新入生

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

『大学生のためのリサーチリテラシー入門: 研究のための8つの力』(ミネルヴァ書房), 自校作成教材

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、生徒全員のグローバル意識を高め、将来的に国際社会に貢献できる人材としての基礎力を育成することを目指し、ノルウェー・カナダの姉妹校と定常的な交流をすすめ、交換留学制度の定着を図り、その内容を全生徒に還元することに努めている。とりわけ、海外交流を経験した生徒に対しては、一過性の体験にとどまらず、問題意識を持ち、国際的な視野に立って課題を発見し、その解決方法を他者と関わりながら考え出す活動に取り組ませている。そうした活動の学習成果を全校生徒へ発信することにより、生徒全体の国際意識を高めることを重視している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

探究活動や課題研究を行う際には、教科の専門性を活かして、各グループの教員の担当者を配置し、場面によってはチーム・ティーチングを取り入れるなどして、指導・助言を行い、生徒が円滑に学習に取り組めるよう配慮している。また、同窓会を通じた人脈の活用を積極的に行い、地域のみならず全国規模で、社会で活躍する卒業生との知己を得ることができ、所属企業・自治体・研究所等と連携したり支援を受けたりする取組を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校経営計画の中に位置づけられた活動として、具体的な達成数値目標や活動内容の評価基準をあらかじめ設定し、指導担当教員が実際の達成度を客観的に評価した。学校活動が意図している目標はおおむね達成されており、国際社会の一員としての意識醸成や、経済産業社会における自己の有用性の模索と発見、未来創造への意志へと繋がっている。一方で、活動推進のための十分な時間や人的支援の確保に困難があり、理想的な活動が円滑に行えない場合もある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信は、基本的に学校ホームページと PTA の広報誌を通じて行っている。学校ホームページでは、活動内容を紹介する豊富な写真と詳細な記事を逐次掲載しており、誰でも自由に閲覧することができる。PTA の広報誌も同様の記事を掲載し、保護者や地域の小中学校等に配布されている。こうした活動内容・成果の発信により、ESD の推進拠点としての様々な活動を本校の魅力ととらえ、入学を希望し、実際に入学後には積極的に活動に取り組む生徒が着実に増加している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

活動の目的や内容に応じて、地元自治体や NPO、複数の大学・企業、商業施設といった多様な地域のステークホルダーと継続的な連携を図り、緊密なネットワークをこれまでに構築してきた。学校外での活動の場を提供してくれるだけでなく、教育の現場では与える機会の少ない、より高度で社会的なものの考え方や視点を、講演や講義等を通じて提供してくれている。教員とは異なる尺度や規準からの評価は、生徒の意欲を刺激し、学びを深める上で非常に有効であると考えている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国外のユネスコスクールとの交流は、現在のところ経験がない。国内に関しては、今年度に神戸大学附属中等教育学校と研究協力校の締結を行い、次年度から本格的に様々な交流を図っていく予定である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

⑥でも述べたように、ほぼ通年にわたって行われている国際交流や国際理解に関する諸活動は、本校の大きな魅力の一つとなり、アピールポイントとなっている。本校生徒が研修で外国を訪れたり、留学生が常に学校に在籍していたりすることが日常的な風景として受け入れられており、生徒だけでなく、教員にとっても、異文化交流や外国の学校との連携の方法・あり方について学ぶ研修の場となっている。派生的に生ずる学校内外の問題についても、学校全体で解決しようとする気運や体制が築かれつつある。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

これまでに培ってきた本校の伝統と文化を継承し、さらに革新し続けるとともに、国際交流を通して、世界における日本人としてのアイデンティティを確立し、他国の人々を含めた相互の理解と尊重を推進していきたい。具体的には、

- ・ 建学の精神を継承・発展させ、未来社会に活躍する有為な人材を育てる。
- ・ 姉妹校交流を中心とする国際交流活動・国際理解学習の中で、日本の伝統文化を見直し継承する活動を、核のひとつとして確立する
- ・ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」等の教科横断的な学習活動において、修学研修旅行を中心に、他校や様々な企業・自治体・NPO 等との交流や意見交換の機会を設け、交流・連携を深める。